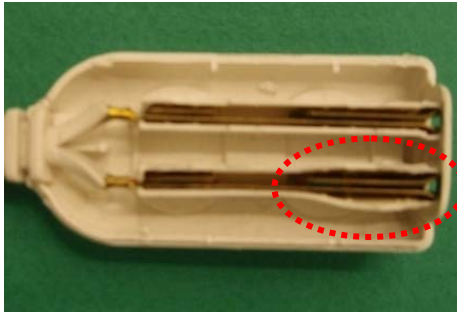


テスト結果詳細

写真 : 開閉試験



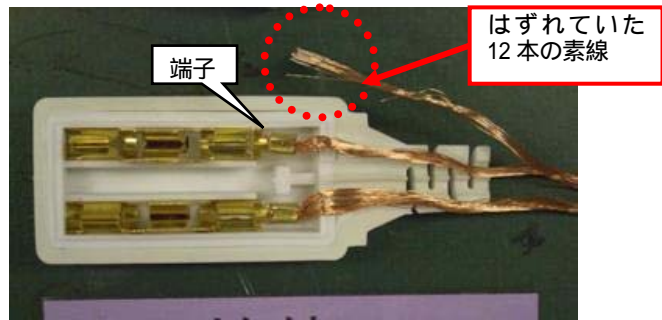
開閉試験後の内部



開閉試験後の差込口

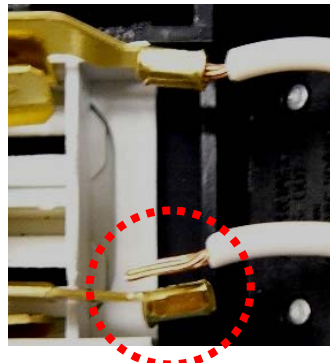
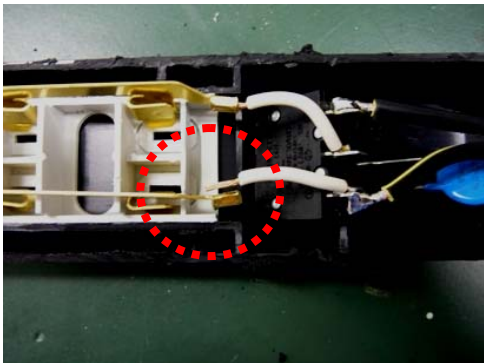
電流を流して、差込口にプラグの抜き差しを繰り返した結果、絶縁物が変形した。保持力の低下や、絶縁性能が劣化し、漏電による過熱事故につながる恐れがある。

写真 : 端子とコードの接続部の構造検査



コードの接続部分で、50本ある素線のうち、12本が端子からはずれていた。接触抵抗の増加による過熱や、はずれた素線が異極の導体に接触して短絡事故の要因となる。

写真 : コード接続部の強度試験



コードの接続部分に引張荷重を加えたと同時にコードが抜けた。接続部のゆるみは、接触抵抗の増加から過熱事故につながる恐れがある。

《参考：テスト方法》

テーブルタップの品質・性能を調査するため、「電気用品の技術上の基準を定める省令第1項 別表第四 配線器具」(1項基準)で規定する検査・テスト項目を参考にしてテストを行った。

なお、本テストは、厳密に電気用品安全法令で定める技術基準への適合性を検査しているものではなく、本テスト結果をもって法令に違反しているとはいえない。

(1) 開閉試験(写真)

定格電流に等しい電流で、毎分約20回の開閉(試験用プラグを差込口に抜き差しする)を5000回、次に定格電流の1.5倍に等しい電流で、毎分約20回の開閉を100回行ったとき、短絡、接点の溶着その他電氣的又は機械的な異状が生じないこと。

(2) 端子とコードの接続部の構造検査(写真)

電線付きの一体成型のものは、端子とその電線との接続部は、かしめ止め、溶接等で完全に接続してあること。

(3) コードの接続部の強度試験(写真)

コードの接続部に10Nの引張荷重を15秒加えたとき、破損などがないこと。

(4) 保持力試験

差込口に差した試験用プラグが抜けるまでの力の5回の平均値は、開閉試験の前後で5N以上60N以下であること。